

## N I E (新聞を教育へ)

ー日本経済新聞「ニュースにチャレンジ」で考えるー

開倫塾

塾長 林明夫

Q：林さんは日本経済新聞にコメントを書いているそうですね。

A：(林明夫：以下省略)はい。昨年の4月から日本経済新聞の土曜版、日経プラス「ニュースにチャレンジ」の中にある「教えて先生」のコーナーを担当しており、取り上げられた本文記事についてのコメントを毎月1～2回、8月末までに20回担当しました。

Q：どのようなテーマについてコメントを加えているのですか。

A：①核兵器のない世界って実現するのかな？

②宮崎の牛の病気、どうして大騒ぎに？

③石油って、そんなに大切な資源なの？

④原爆ドームどうして世界遺産なの？

⑤日本の首相ってなぜすぐ代わるの？

⑥預金が返ってこないこともあるの？

⑦レアアースってどんな資源なの？

⑧ TPP って何のグループ？

⑨常用漢字って何のためにあるの？

⑩日本の会社なのに英語が公用語なの？

⑪なぜ中東で騒ぎが起こっているの？

⑫南極の近くでクジラを捕るのを中止するんだって？

⑬計画停電、夏はもっと心配？

⑭町ごと移転ってどういうこと？

⑮ヨーロッパの王室ってどんなところ？

⑯出生率 1.39 ってどういうこと？

⑰「スパコン世界一」って何が一番なの？

⑱オリンピックに都市名が付くのはなぜ？

⑲国の借金 どうして増えたの？

⑳食糧自給率 39%ってどういうこと？

\*内容はすべて <http://www.kairin.co.jp/>開倫塾の HP 林明夫のコーナーにありますので御覧下さい。

**Q：随分本格的なテーマですね。どのように書いているのですか。**

A：その週の土曜日のテーマについての執筆依頼が火曜日にあり、新聞本文の原稿が水曜の夜に送信されてきます。翌木曜の正午ころまでに私が原稿を書いて、編集されたものが木曜の夜に送信され、最終チェックを入れて完了となります。

私は、火曜日にテーマを知らされてからほぼ 1 日半、そのテーマについての勉強をかなりします。書店で 2 ～ 3 冊本を買ったり、時間があれば図書館に行き一通り勉強をしたりして、コメントを加えるべき新聞記事原稿の到着を待ちます。私立中学入試や中高一貫校入試、高校入試、大学入試などの入学試験でそのテーマがどのように取り上げられているかも、もちろん調べます。

コメントを加えるべき新聞の原稿を水曜の夜に見て、翌朝少し長めのコメントを書き上げ、1 回校正。新聞社に送り、編集を待ち、最終校正となります。

**Q：結構大変そうですね。**

A：慣れるまでは右往左往しました。しかし、毎月 1 ～ 2 回のペースですが、最近は要領が少しつかめてきました。

テーマは日本や世界にとって大切なもの、興味のあるものばかりなので、勉強にもなりありがたいと思っています。日本経済新聞の読者だけではなく、開倫塾の先生方や塾生、保護者の皆様が少しでも新聞に親しみ、新聞を読んで頂ければと思って取り組んでいます。

**Q：日本経済新聞以外でも連載はあるのですか。**

A：読売新聞の栃木版「とちぎ寸言」に 2008 年より年に数回、約 800 字の地域の発展に関する提言を盛り込んだコラムを書かせて頂いております。栃木県の地元紙の下野新聞には、2010 年の半年間毎月 2 回合計 21 回、受験勉強の心得を書かせて頂きました。

**Q：新聞は教育に役立つとお考えですか。**

A：学力の高い人は新聞を含む読書による思慮深さを身につけておられます。また、本職の新聞記者はもちろんのこと、どんな短い文章であっても社会の公器である新聞に文章を書く人々は、私も含めかなり本気で書いておりますので、新聞を読むことで考える力、特に批判的思考(クリティカル・シンキング)能力が身につくと考えます。

大切な記事は切り取り、ノートに整理した上で繰り返し読むと、思考を深めることができます。

新聞を毎日なめるように読む人は、大量の文章を瞬時に理解する能力が高まりますから、すべての教科に必要な読解力が身につくと思います。テストの時に大量の問題文を素早く読み解くのにも役立ちます。

日本語の新聞を読んでよくわかった内容を辞書なしで英字新聞で読むと、英語の読解力も身につくと思います。

**Q：学習塾、予備校、私立学校の経営者、先生方にお伝えしたいことはありますか。**

A：「新聞を教育へ」は NIE(Newspaper In Education)活動として、かなり知れ渡っていますが、すべての学校のすべてのクラスで行われているわけではありません。

新聞の教育への効用は先生方も十分ご承知と思いますが、実情を言えば小学生、中学生、高校生で新聞を毎日熱心に読む人はどんどん減ってきています。その結果、大学生や大学院生、社会人になっても新聞を熱心に読まない人が多いのです。ケータイで新聞のタイトルだけを見て過ごしてしまう人が増えています。腰を落ち着けて新聞をしっかりと読み、自分の考えを形づくるためにも、まずは、御自分のクラス、学年、校舎、学習塾、予備校、私立学校から、「新聞を教育へ」(NIE)の取り組みをお勧めいたします。

また、先生方が御自分で考えたことや調べたこと、世に問いたいことは地元の新聞社にどんどん投稿する。世に知らせたい出来事やイベント、アンケート調査があれば、毎月 1 回は取材の御案内を新聞社にお出しになることをお勧めいたします。

開倫塾では、創塾以来 10 月の新聞週や 11 月の NIE 週間に地元の新聞記者や新聞配達店の皆様を講師としてお招きし、「新聞ができるまで」というお話をして頂いて好評を得ています。また、教職員の研修として新聞印刷所などを見学し、NIE 活動に役立てています。

**Q：最後に一言どうぞ。**

A：8 月 12 日に経済産業省サービス政策課で、担当者 3 名からサービス産業とりわけ教育産業の海外展開についての意見聴取を 1 時間余り受けました。

多くの国々との間で経済連携協定の締結交渉を行っている中で、製造業だけではなく、サービス産業、とりわけ教育産業にも積極的に海外に打って出てもらいたい、そのときに、阻害要因、ボトルネックになることがあれば外交交渉の中で予め解決したいとの意向でした。

学習塾や予備校、私立学校も縮小する日本市場から、海外に打って出る日が到来しているのかも知れませんね。

今月もお読みなれば必ずためになり、必ず元気になる本を 2 冊御紹介します。一冊目は福沢諭吉先生著「福翁自伝」、もう一冊は二宮尊徳先生の一代記、富田高慶述「報徳記」、どちらも岩波文庫です。一国の歴史はどのようにつくられるのか、2 人の偉人の一生を通してよくわかります。難しいと思わず、是非御一読を。

－ 2011 年 8 月 18 日記す－